三原市市議会議員

正田洋一 議員レポート

第14号

正田洋一事務所
〒723-0062　三原市本町 2-11-12
TEL 0848-63-0085　E-mail　info@shoda-yoichi.jp　HP www.shoda-yoichi.jp

１期４年の定例会が全て終わりました。14 号が１期目の最後のレポートとなります。自分なりには、精一杯努めさせていただいたと思っていますが、力不足なこともあったと思います。

また、皆様からたくさんの激励やお叱りをいただきました。実現できなかったことも前に進んだこともありました。まだまだやらなければならないことはたくさんあります。

４月９日（日）からは２度目の市政への挑戦をさせていただきます。引き続き、皆様のご指導ご支援が必要です。是非ともよろしくお願い致します。

なお、今回から新たに後援会にご加入いただきました皆様へは、これからさらなるご指導ご支援いただきたいとともに、機会を得たならば、必ず議会レポートでの報告や報告会など皆様のご意見を伺う機会を持ち、意見を議会の場で意見し反映していくことをお約束致します。

正田洋一「日々の絆」

1　真冬のやっさ踊り撮影！

みなさん夏が待ち遠しいみたいでした。

三原 TV さんの築城 450 年事業オープニングドラマへ出演。急遽、本町町内会に出演依頼をいただき、冬のやっさ踊り練習風景の撮影をしました。主役のふるさと大使のもりちぃと本町の正田さん (私じゃない) の名演技で盛り上がりました。私もエキストラで。いい記念になりました。

定例議会報告

過去に取り組んできた課題の１期４年の総括および施政方針演説の内容について聞きました。以下の３点です。

１．周産期医療体制整備について

Q: 周産期医療体制整備について、平成 29 年度までの状況について聞く。本件は、私が平成 26 年 2 月定例会に総括質問をおこなったが、その後、検討委員会が設置され、平成 28 年度から産科の医療機関に対して、分娩 1 件につき、1 万円の予算化がされるなど一定の施策を実行してもらった。しかし、医師の確保に向けての施策の検討および国や県への要望については、どのような状況か聞く。こどもを生み育てられない街に未来はない。市長の課題認識について聞く。

A: 三原赤十字病院の分娩中止に伴い、岡山大学医局に対して、市長が病院長とともに訪問、医師派遣の要望をおこなった。また、広島県産婦人科医会、広島大学等で構成する広島県周産期医療協議会にも医師派遣の要請を行ったが、備北を優先したいとの回答であった。
知事との市町村懇親会についても、市長から知事へ要望を行った。また、広島県市長会においても三原市の要望取り上げられ、全国市長会に提出された。

Q: 経緯経過から、努力されていることを認識した。他に医師の確保の面で将来医師を目指すもの、三原で取り組んでいただく医師を確保する独自の施策の検討はできないか。

A: 今後も市長が先頭にたって強く要望していく。医師を目指すもの確保に向けては、成果に 10 年以上かかると思う。引き続き、市内の産科医、医師会とも相談して医師確保の努力を最大限に行う。
課題認識としては、厳しい状態ととらえつつも、引き続き国や県に対して要望活動を行っていくとともに、安全に出産できる体制の構築に努めたい。

２．財政運営の考え方

Q: 財政運営の考え方について聞く。本件は、不燃物処理工場建て替えの財政課題についてだ。昨年 9 月に突如、約 20 億超の案件としてだされ、当初予算に調査費用が計上されている。合併特例債を利用するとのことだが、その手当はついているか。残はないはずだ。また、平成 31 年度経常収支比率の 94％以下は達成できるのか。
三原市は、小さな予算を削って歳出削減の努力をされているが、大型案件がでてくるのであれば、削減効果がでない。建て替えが必要な施設の認識はあるが、なぜ急ぐのか。時期や予算について、慎重な検討が必要ではないか。

A: 合併特例債について、消防本部建設他予算を他の補助メニューに切り替えたので、約 20 億円のうち 14 億円は捻出できる見込みである。平成 31 年度経常収支比率 94％以下は達成できる見込みである。
なぜ急ぐのかについては、昭和 49 年の供用開始以来、40 年以上が経過しており、リサイクル法などの関係法令にも対応するため、設備を拡充した結果、非効率な作業環境になってしまったためである。

Q: 私は賛成しかねる。財源の議論が不十分であると同時に昭和 49 年というのは一番古い施設であり、20 年程度のまだ使える施設もある。遅かれ早かれ建て替えは必要だと思うが、投資案件がここ数年立て込んでいる現状から財政はもちろん、機能や収集方法など詳細に検討をされてからでも遅くないと思うがどうか。

A: 合併特例債の有効な財源が活用できるうちに投資したいと考えている。31 年の供用開始にむけて理解を得ながら進めていきたい。

3．施政方針からグランドデザインおよび人材育成について

Q: 施政方針で言われるグランドデザインとはどのようなものか。私は以前から街づくりのグランドデザインの必要性を訴えてきた。ただ、まちづくり戦略検討会議でつくられた駅前東館のグランドデザインは、生かされたとは言い難い。アウトプットはなにか。誰がつくるのか。どう生かすのか。

A: グランドデザインについては、築城 500 年に向けて、景観の考え方、発展のイメージ、エリアごとの目指すコンセプト、ハード、ソフトの両面から青写真を描く。誰がかについては、現在その素案を作成している状況で、平成 29 年度から市民、経済界、各種団体などで、その内容を深め、情報発信していきたい。

Q: グランドデザインについて、たとえば本町のような歴史文化を残す街には景観条例などをつくることもふくまれるのか。

A: 条例などの強制力をもつものまでは考えていないが、ガイドラインなどは考えている。

Q: 人材育成について、私は高度社会人育成が地域の課題を解決すると以前から申し上げている。県立広島大学の MBA プログラムを通じた人材育成について、副市長に提案書を提出させていただいた他、県議会議員を通じて県にもお願いをさせていただいた。社会人の経営理論と実践知識が、地域の課題解決および地域力の向上につながると考えるがどうか。

A: 現在も県立広島大学と連携したシティカレッジを開催しているが、高度社会人育成によるイノベーションにつながる教育プログラムについては、市も同様な認識をもっており、具体的な検討をすすめている段階である。
具体的には、社会人の経営理論と実践知識、問題解決能力の習得を通じた、人材育成プログラムを今後出していく。

4 年間を振り返って

4 年 1 期の議員生活が終わりを迎えようとしています。
私は、この 4 年間意識した言葉があります。「議員は市民の側の代表」
当たり前の言葉ですが、「側」という単語にこだわってきました。
また、一般質問は、その市民の声を届ける一番の場だと考えていました。
そこにこだわりを持ってやってきました。
私は、一般質問を 4 年計毎回の 16 回行いました。毎回質問したのは 27 名の議員中、わずか 3 名です。1 期目の新人といわれる世代では私だけです。
最後の質問が終わったとき、4 年間の必死の思い出がよみがえり、心があつくなりました。涙が出そうになりました。魂をこめた実感がありました。今後こういう機会が得られたくなったらどうしようかとも思いました。
まだまだ力不足だったと思います、出来たこと、出来なかったこといろいろありますが、まだまだやらねばならないことがたくさんあります。
再び、活動をする場を私にお与えいただきますようによろしくお願い致します。

わたしの願いと取り組みです

みんなでつくる
希望ある三原へ

❶いろんな意見が言える街へ

市民の代弁者となり、ひたむきに課題解決を追求します。また、若い世代の政治参加も促進して多くの意見を取り入れる街にします。

❷楽しく暮らせる街へ

働く場づくり、快適に生活する環境づくり、歴史文化を大切にする人づくりを自らが先頭に立ち「生活文化都市三原」をつくります。

❸自分たちが自慢できる街へ

食・歴史文化・街並み・農水産品・暮らしやすい街などをブランド化して、自分たちの街に幸せを感じ、みんなが誇れる街にします。

❹クリアな議会政治の街へ

多くの市民の意見を取り入れる議会であり、クリアで議会が市民に興味を持っていただける場として活動できるようにします。

2 お雛祭りへの参加！

今年で３回目を迎えたお雛祭りへ。年々来場者が増えるこのイベントは、観光協会の主催で、我が町の宝になりました。今年は、前日の準備から片付けまで。見に来てくれる方が喜んでいただけるのがうれしい。しかし、重たい石の持ち運びで、ぎっくり腰寸前までに。なんとかそこまでいかずにすみました。準備もお祭りも片付けもみんなでやれば楽しいものです。

市民のボランティアのみなさんが準備片付けをされます。
私も必ず参加してお手伝いをします。